

## 1 「生活Can do」とは

### 生活Can do

「生活Can do」は、誰もが持っている「生活」という側面に着目して、我が国において日常的な生活を営む全ての外国人(「生活者としての外国人」)が日本語で行うことを想定されるものを例示したものです。「日本語教育の参照枠」に示された分野別の言語能力記述文(Can do)の一つです。

### 対象となる範囲

「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について(平成22年5月、文化審議会国語分科会)に示される「生活上の行為の事例」(当該カリキュラム案P120参照)

生活上の行為の事例の分類

- |               |               |
|---------------|---------------|
| I 健康・安全に暮らす   | VI 働く         |
| II 住居を確保・維持する | VII 人とかかわる    |
| III 消費活動を行う   | VIII 社会の一員となる |
| IV 目的地に移動する   | IX 自身を豊かにする   |
| V 子育て・教育を行う   | X 情報を収集・発信する  |

### レベル

基礎段階の言語使用者(A1、A2)から自立した言語使用者(B1、一部B2)までを想定

### 言語活動

聞くこと、読むこと、やり取り、発表、書くこと

### 例

<やり取り・A1> 店で買い物をするとき、買いたいものや個数を伝えることができる。【Ⅲ消費活動を行う】

<読むこと・B1> 適切な医療機関を選ぶために、病院のサイトなどの、ある程度長い文章に目を通して、診療科目や診療内容など、必要な情報を探し出すために読むことができる。【Ⅰ健康・安全に暮らす】

### 日本語教育の参照枠とは

ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)を参考に、日本語の習得段階に応じて求められる日本語教育の内容・方法を明らかにし、外国人等が適切な評価を受けられるようにするために作成された枠組みです。令和3年度に最終報告が取りまとめられました。

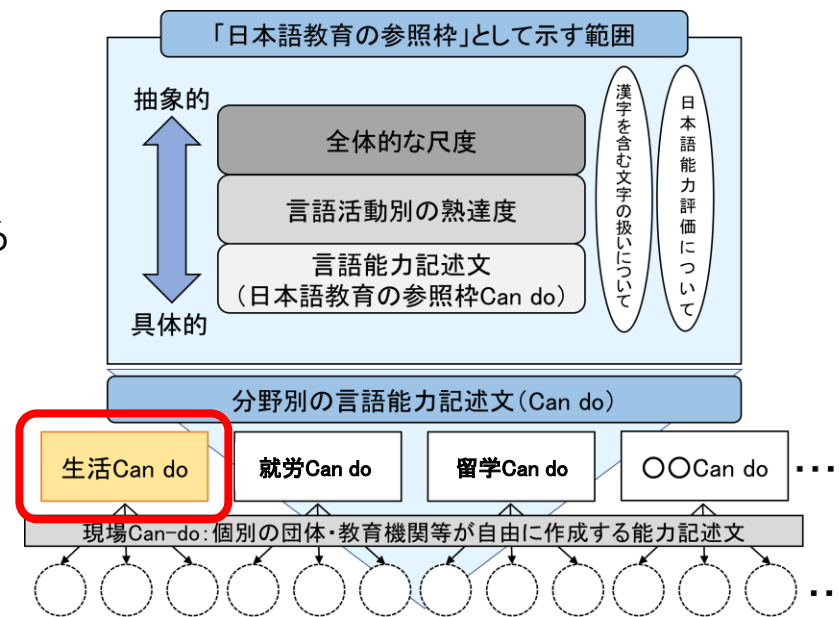


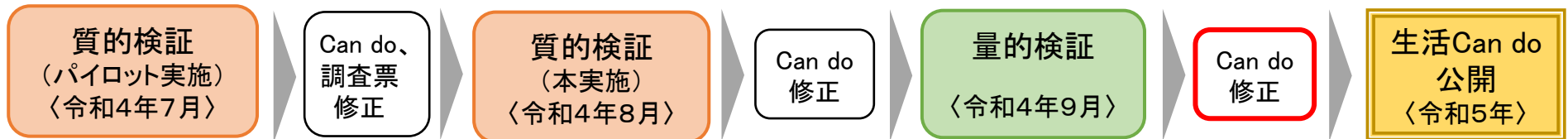
図 「日本語教育の参照枠」における「生活Can do」の位置付け

## 2 検証の目的・流れ等

### 【検証の目的】

- ◆ 生活Can do(案)の各Can doについてレベル尺度の妥当性の精査のために検証(質的・量的検証)を実施します。
- ◆ 検証の結果を踏まえ、各Can doのレベルや表現等の修正を行います。

### 1 検証実施の流れ



### 2 検証の内容

#### 質的検証(パイロット実施・本実施)

- 【対象】日本語教師(パイロット:20名、本実施:約100名)  
 【方法】Can doが示すレベルや表現の分かりにくさ等を尋ねます。  
 【分析・修正】レベルの齟齬や表現が不明瞭な点等を洗い出し、修正を行います。

#### 【調査内容】

調査項目となっているCan do(合計100)について、主に以下の点を回答いただきます。

- ① Can doのレベル
- ② ①のレベルの判断の根拠となった表現等

#### 量的検証

- 【対象】日本語学習者(約800名)  
 【方法】  
 ・質的検証結果に基づき修正を行ったCan doを提示。  
 ・「日本語でできるか」を4段階で尋ねます。  
 【分析・修正】  
 ・回答結果を統計的手法を用いて処理し、Can doのレベル尺度の妥当性について検証を行います。  
 ・結果に基づき、レベルの齟齬について修正を行います。

#### 【調査内容】

調査項目となっているCan do(合計100)について、日本語でできるかどうかを回答いただきます。